

中

四川省の成都を訪問した。中国のレアアース輸出のWTO敗訴が決定した後、初めて行われた国際会議で、パネリストとして招待された。2010年の尖閣諸島問題に端を発して、中国が外交カードとしてレアアースの禁輸を利用したことは、日中レアアース戦争とも呼ばれている。

レアアース会議は、「即刻WTOルールに従うべきだ」という日欧米の意見と、「時間をかけて（輸出枠と輸出税の）規制を外す」という中国側の方針の溝が埋まらないまま、3日間の日程を終えた。中国政府は「レアアース鉱山への資源税を新たに賦課し、輸出制限は15カ月後に外せば問題はない」という自己中心的な考え方に終始していた。

中国側には問題解決を対処するリーダーがないため、ことレアアース問題では共存共栄の道が閉ざされているようにも見た。実質上、まだ日中レアアース戦争は終わっていないのだ。

さて、会議の後、中国の友人の誘いで成都市郊外の凌雲寺にある有名な「楽山大仏」をお参りすることになった。楽山大仏は唐の時代に断崖を削って建立された世界最大の巨大仏であるが、1996年には峨眉山と併せて世界複合遺産にもなっている。

四川省の樂山市はこの樂山大仏が有名だが、彼らにとってはもう一つ

誇れる場所がある。楽山大仏のある凌雲寺にある「郭沫若記念堂」には郭沫若（1892～1978）の業績が展示してある。郭は樂山の出身の著名な政治家であり、文学者、哲学者でもある近代の中国三大名筆の一人だ。中国の教科書には必ず中華人民共和国の設立に貢献した英雄として紹介されているので、中国人で知らない人はまずいない。

日中友好のキーマン・郭沫若

歴史の変わり目には長期的なビジョンを持ったリーダーが必ず現れるが、日本人と中国人の違いをよく理解して、両国の共存共栄の道を支えたリーダーが郭であった。旧制六高、九州帝大医学部で学び、その後革命に身を投じ、中華人民共和国建国、日中友好のためにも努力した人である。

元全日空社長の岡崎嘉平太（1897～1989）と周恩来（1898～1976）が日中国交正常化（1972）に貢献したことは有名であるが、郭の後押しがなければ、国交正常化はもとより、日中平和友好条約の締結（1978）は遅れていたかもしれない。

郭が千葉県市川の須和田に居たことを知る



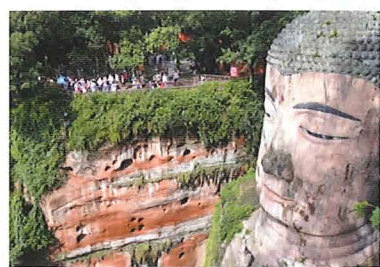
AROUND THE WORLD

山師の手帳

中村繁夫 Shigeo Nakamura

「日中レアアース戦争」 終結に欠けているもの

写真・生津勝隆 Masataka Namazu



高さ71mの威容を誇る「楽山大仏」

日本人は少ない。戦前、市川に在る間は、重要人物として常に憲兵の監視下に置かれていたが、祖国が欧米に蹂躪されることを憂い、帰国を決意する時に、「さらば、須和田よ」なる五言絶句を残した文学者でもある。日本人妻との間の4人の子供を残しながらも、新生中華人民共和国の建国のためにうしろ髪を引かれる思いで、市川の須和田を後にしたので。

郭は革命軍の思想的リーダーであったが、日中友好条約締結の裏舞台では日本の立場を理解して我が国に貢献してくれた恩人でもあった。現在の日中関係にこそ「共存共栄」を希求するリーダーが必要である。郭のようなリーダーが現代の中国にいれば「レアアース戦争」のような事件は起こらなかったのではなからうか。

郭沫若、周恩来、魯迅と多くの中国人が若き日に日本で学び、建国のうちに日中友好のために努力した歴史を忘れるべきではない。今回の出張ではレアアースの国際会議に参加し、楽山大仏を拝み、郭沫若の偉業に思いを馳せることが出来た。私もこれまで36年間に200回以上、中国を訪問しているが、今の日中関係の悪化を憂い日中友好の一助となるべく一層の努力をしたいと思っている。

なかむら・しげお レアメタル専門商社、アドバンストマテリアルジャパン（AMJ）社長。日本におけるレアメタルの第一人者。世界100カ国を訪問し、世界制覇を目指す。